

環境部会の取組

①地球温暖化の現状と課題

●温室効果ガスの増加(CO2排出構造の変化)

単位：千トン

発生源	1990年	2005年
家庭	1,156.6	1,159.4(1.3%)
業務	742.9	840.6(1.1%)
自動車	289.0	435.0(1.5%)
貨物自動車	485.3	427.5(0.8%)
産業	18,020.8	18,910.8(1.0%)
計	22,791.0	23,853.8(1.0%)
人口(1990年を100)	1.00	1.13

- 緑地や農地の減少
- 平均気温の上昇
- 増加する集中豪雨

②行政及び区内団体の協力による

これまでの取組

●区庁舎屋上に太陽光パネルを設置

●食料エネルギー活用促進実行委員会

- ・出前授業、遠隔授業
- 施設見学会
- おひさまと遊ぶ開催
- ニュースの発行



●懇話会（講師 末百竹二郎 川崎市参与）

●4大学連携取組

- ・子ども向け地球環境ミュージカル開催
- 「もぐもぐマンとザンパンせいじん」

●ゴーヤのカーテン大作戦

- グリーン電力購入
- ハイブリッド車の導入
- エコオフィスの取組
- 里地・里山フォーラム
- 花と鳥の取組
- エコウェアの取組



③身近な地域に向けた考え方

③-1

●身近な地域から温暖化対策を実践

・川崎市地球温暖化対策地域推進計画、カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略（CCかわさき）等と連動し、**家庭におけるCO2削減**を推進する。

・エコ意識を高めるため、エコの普及啓発活動を展開する。

麻生区では、区役所屋上に設置した太陽光発電設備を活用し、自然エネルギーの活用促進、省エネルギーを目的として実行委員会を立ち上げ、区民と行政が協働し、普及啓発活動を展開している。

③-2

●身近な地域から緑化活動等を実践

・川崎市環境基本計画、緑の基本計画等を踏まえ、身近な地域から実践的な緑化活動を行う。

・麻生区の地域特性である農を活かしたまちづくりを進める。

・里地・里山を活かしたまちづくりを進める。

麻生区では、里地・里山フォーラムや市民健康の森の活動、あきお生きごみ隊や環境を考えた行動する会による生ごみリサイクルなどの活動が行われている。

④区民会議としての検討項目(案)

④-1 レジ袋削減に向けたエコバッグの

普及啓発

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



④-2 環境家計簿の作成

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



④-3 生ごみの増肥化などの推進

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



④-4 地産地消の推進

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



区民会議としてのモデル事業

①生ごみリサイクルと地産地消の取組

●生ごみのリサイクルの取組(平成21年3月開始)

- ・レストランあさおの生ごみを収集して東京農大へ
- ・東京農大のリサイクル研究プラントにて、生ごみから肥料「みどりくん」をつくる
- ・農家は肥料「みどりくん」を使って野菜を生産
- ・農家でつくった野菜をつかったランチを区民に提供

●地産地消の取組(平成21年6月開始)

毎月19日の食育の日にあわせ、肥料「みどりくん」からつくった野菜を素材に「あさおスペシャルランチ」区民に提供(メニュー)

- 6月 キャベツのじゃこの和風サラダ
- 7月 ナスとベーコンのトマト煮
- 8月 しゃぶしゃぶ風冷製ゴーヤー
- 9月 麻生風秋茄子のカレーライス
- 10月 ロールキャベツ
- 11月 ポテトコロッケ

●生ごみリサイクルと地産地消の取組のフォーラム開催

日時 11月29日(日) 参加者132名
 場所 麻生区役所第1会議室
 内容 基調講演(東京農大 後藤教授)
 事例発表(4団体の事例紹介)
 パネルディスカッション
 (農大 後藤教授、明大 玉置教授ほか)

写真展 19作品出展

●麻生区エコカルテの作成

麻生区小学校校長会、総合教育センター等と連携し、麻生区エコカルテを作成

- ①データ編(区内の環境に関するデータ)
気温、緑、河川、自然エネルギー、ごみ減量、食と農など
- ②取組事例編(区内のエコ関係の取組紹介)
自然エネルギー、省エネ、廃棄物減量とリサイクル、緑と農など

●環境家計簿の作成

麻生まちづくり市民の会のエコプロジェクトに区民会議として協力、環境家計簿コンテストに参加

- 7月 環境家計簿モニター募集(92名)
- 9月 講演会
- 11~1月 モニター調査期間
- 2月 環境家計簿コンテスト発表